

1 「国民情緒法」がある？！

- ・最大のリスクは政治の不安定感
- ・大統領の運命も「民心」次第

2 個別の「正義」が国をややこしくする

- ・後進性と被害者意識
- ・価値の基準 違法か適法かではない

3 自画自賛「平和的デモ」の真相

- ・新聞テレビはデモを「聖域」化
- ・国民は何に怒ったか
- ・デモの主導者と背景

4 記事を書いたら「名誉毀損だ！」

- ・すべては旅客船沈没事故から始まった
- ・大統領弾劾と産経元支局長在宅起訴問題の共通項
- ・コラムで踏んだ虎の尾《朴槿恵政権の最高機密》

5 見つからぬ弁護士

- ・情報通信網法の名誉毀損罪
- ・深く正確な情報で局面打開

6 韓国検察はなぜ、筋の悪い告発を事件化したのか

- ・朴槿恵政権を読み解くキーワードがあった
- ・大統領府が「産経懲罰」を密室謀議

7 検察との大一番

- ・録音録画聴取室での攻防
- ・起訴して逆に追い込まれた検察と韓国政府

8 法廷で何が明らかになったか

- ・法廷で見た韓国の司法の現場
- ・告発の根拠は……無かった？！
- ・裁判長、苦痛の「無罪」判決

9 国民情緒も見放した

- ・ネットの書き込みに表われた本音と庶民の意識
- ・エライ人々は、日本をどのように見ているか？

10 日韓 懸案の解法は？

- ・日本政府の「強硬姿勢」がこじらせているのか？
- ・大韓民国憲法前文に驚愕の記載
- ・ポスト朴槿恵政権 いずれにしても混迷必至
- ・コリアンリスクに覚悟はあるか？

(平成29年2月20日)